

ワシントン州：小麦作柄と気象状況

2005年7月12日

2005年7月10日現在：

7月10日に終わる週の東部ワシントンの気象は、週の初めは高温・少雨であったが週の後半になり低気圧が張り出し降雨をもたらし、気温が下がった。州東部中央並びに東南部での最高気温は90度半ばに達したが、平均気温では平年を1~4度F下回った。東部に見られた週末の降雨の降水量は0.14~0.30インチであった。Topsoilの水分は前週に比較し変化は少なかったが、Subsoilの水分は減少した。1週間の州平均農作業稼働日数は5.7日（前週：6.4日）であった。

Adams郡の冬小麦の収穫が同郡南部にて週末より開始された。山岳寄りのGarfield郡の海拔の低い西側より収穫が開始された。同郡及びAsotin郡の海拔が低い圃場では水分不足が目立ち作柄が極めて悪いが、標高の高い圃場では作柄は良い。Lincoln郡の冬小麦の収穫は週末の降雨の為に中断し、一部の圃場では小麦が倒伏した。Spokane郡では週末に1.0インチ以上の降雨があり、小麦の枯熟が遅れ収穫開始は更に先になる見込み。Walla Wall郡の一部で冬小麦の収穫が開始された。単位収量は平年並みと報告された。同郡の7月9日の降雨は0.10~0.45インチであった。Whitman郡の西の端より冬小麦の収穫が開始された。気温並びに降水量は平年並みであった。

作柄は冬小麦、春小麦ともに前週より評価が落ちた。理由は週は初めの高温と水分不足の為にと言える。

7月1日付けUSDA発表の冬小麦生産量予想では、単位収量は6月1日付け予想と同数の69.0 bu/acrであった。春小麦の生産量予想では、単位収量は昨年実績より少ない45.0 bu/ac（昨年：50.0 bu/ac）であった。春小麦の生育期の水分不足がマイナス要因と言える。詳細は別表の通り。

土壌水分及び灌漑用状況 : 7月10日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	6	24	69	1
5-Yr Ave.	12	38	50	0
Subsoil (%)	14	46	40	0
5-Yr Ave.	8	46	46	0
Irrigation W.	7	11	82	0
Irr. Water Ave	0	4	96	0

Ave. means 5-year average

小麦の生育状況 : 7月10日現在

	This week	Last week	2004	5-yr. Ave.
Winter Wheat				
Headed (%)	100	99	100	100
Harvested (%)	2	0	3	2
Spring Wheat				
Headed (%)	99	97	99	97
Harvested (%)	0	0	0	0

小麦の作柄状況：7月10日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
Winter Wheat					
Dryland (%)	2	6	21	55	16
Irrigated (%)	0	1	12	63	24
Spring Wheat					
Dryland (%)	0	7	37	50	4
Irrigated (%)	2	4	21	66	5

Source : Washington Agricultural Statistics Service, USDA

7月1日付けUSDA冬小麦生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
June 1				July 1			
WA	1,750	1,850	67.0	69.0	63.0	117,250	127,650
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

7月1日付けUSDA春小麦生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
June 1				July 1			
WA	525	435	50.0	-	45.0	26,250	19,575
State	13,174	13,637	43.2	-	43.2	568,918	588,740

当該作柄・気象レポートに関するご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>